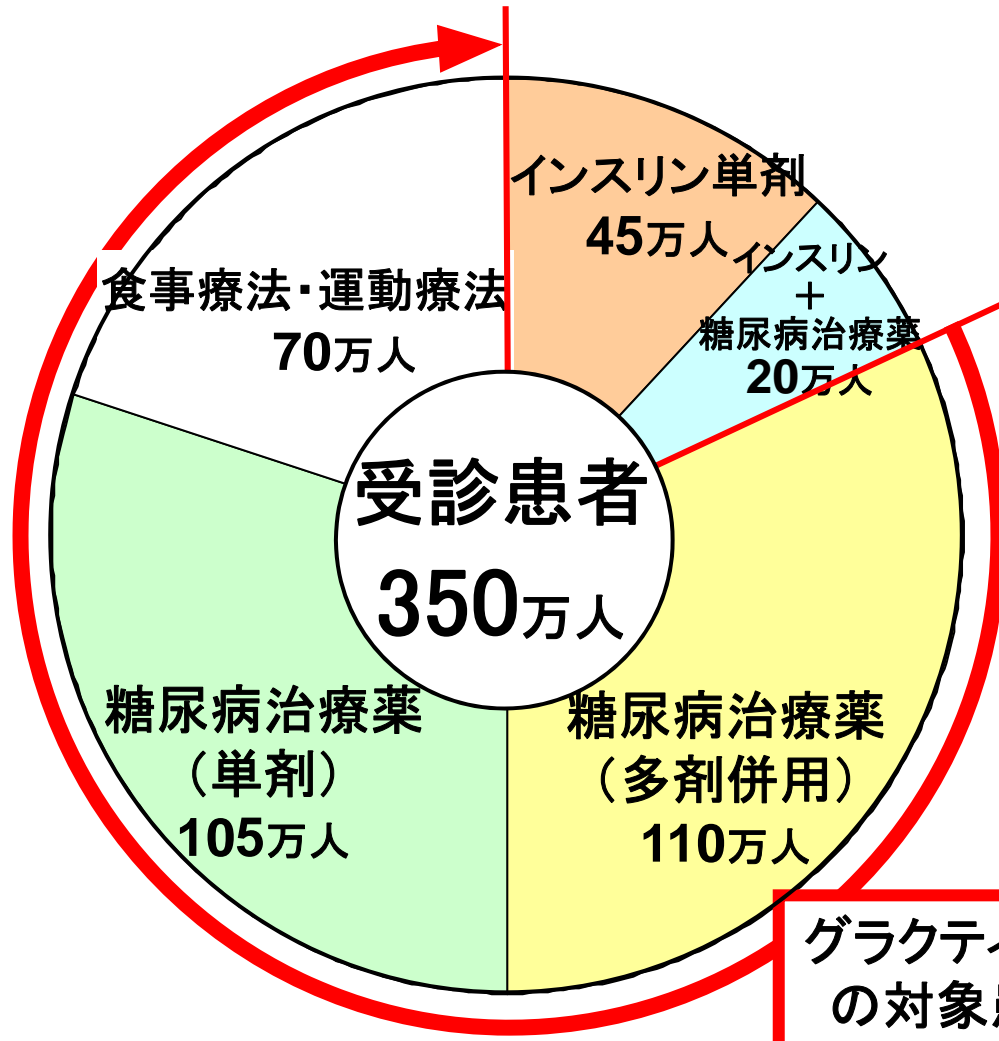


グラクティブ錠

— 現状と今後の展望 —

糖尿病治療薬の市場

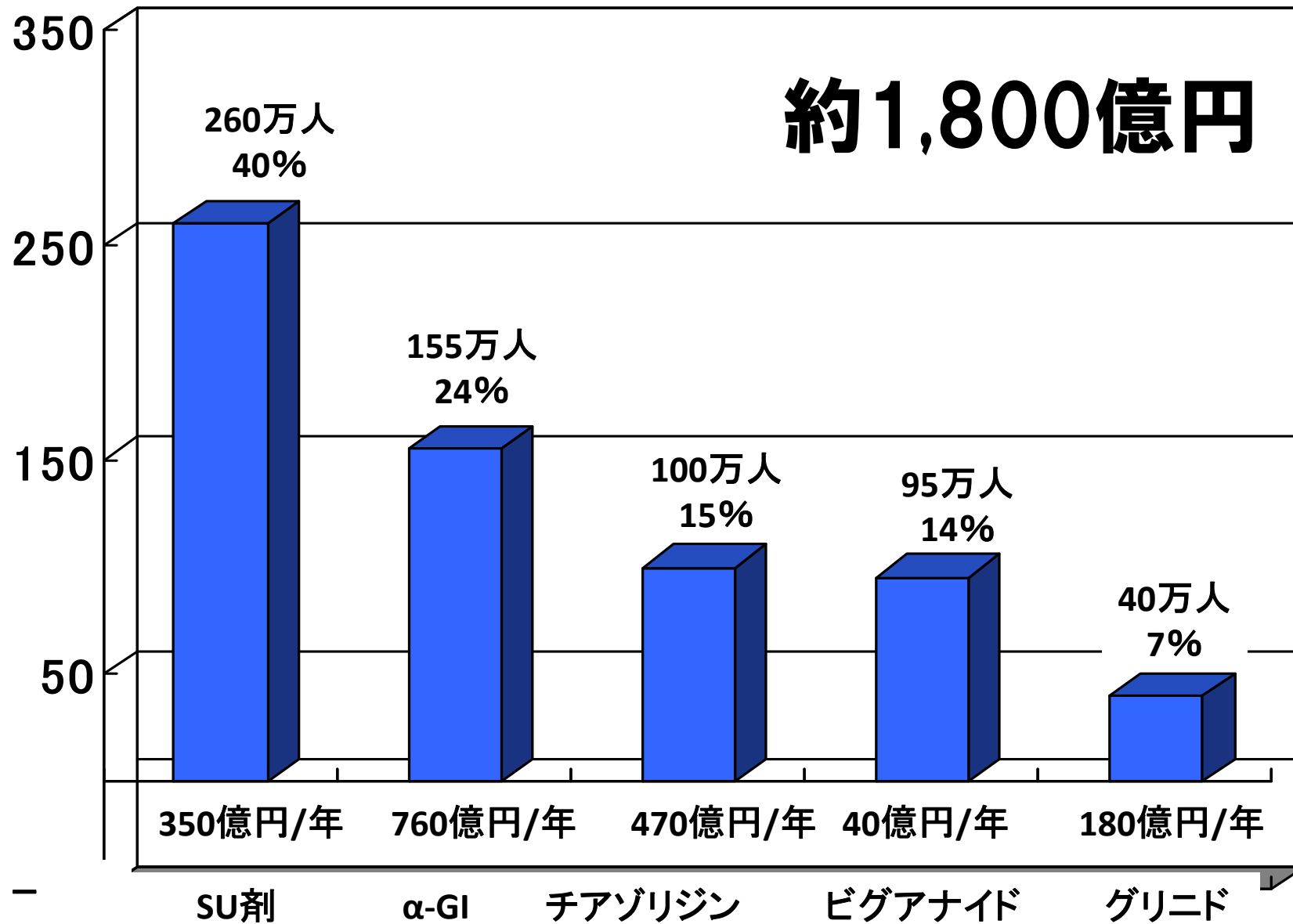


- (1) 糖尿病が強く疑われる人
約 890万人
- (2) 糖尿病の可能性が否定できない人
約1320万人

(1)のうち糖尿病が強く疑われる人の治療状況について「現在治療を受けている」と回答した人の割合から
約350万人

「2007年国民健康・栄養調査」

経口糖尿病治療薬の市場 2008年



2型糖尿病治療の課題

**(1) 長期的な血糖
コントロールの悪化**

(2) 厳格な血糖コントロールに伴う低血糖

**(3) 治療に伴う
体重増加**

**(4) 服薬
コンプライアンス**

グラクティブ錠の特徴

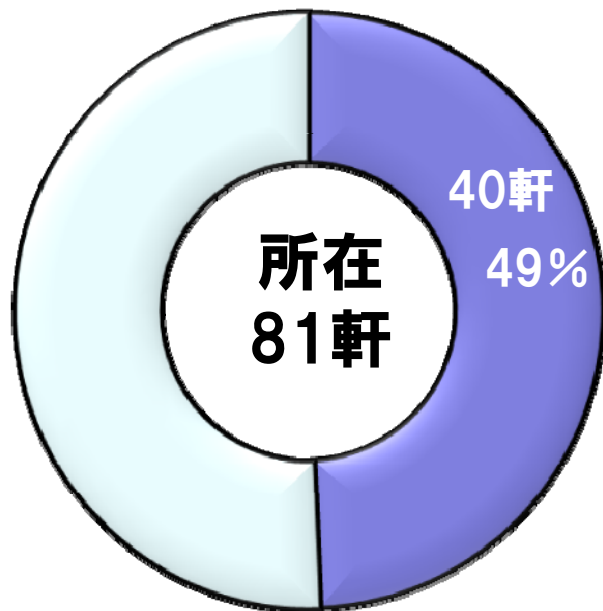
1. 1日1回投与でHbA1c、食後過血糖及び空腹時血糖値を改善
2. 52週にわたり安定したHbA1c改善効果が持続
3. SU薬、ビグアナイド、チアゾリジンと併用可能であり適応が広い
4. 単剤投与では低血糖が起こりにくい
5. 体重に影響を与えにくい
6. FDAをはじめ世界80カ国以上で認可

現状の口座状況と目標

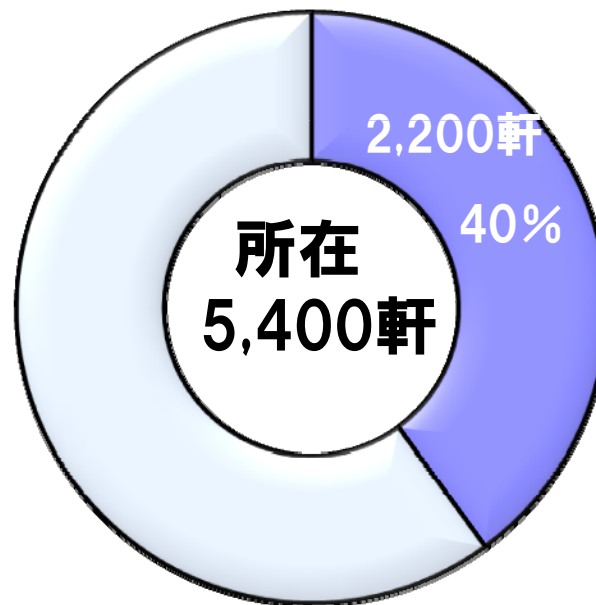
現状の口座軒数

平成22年4月末日現在

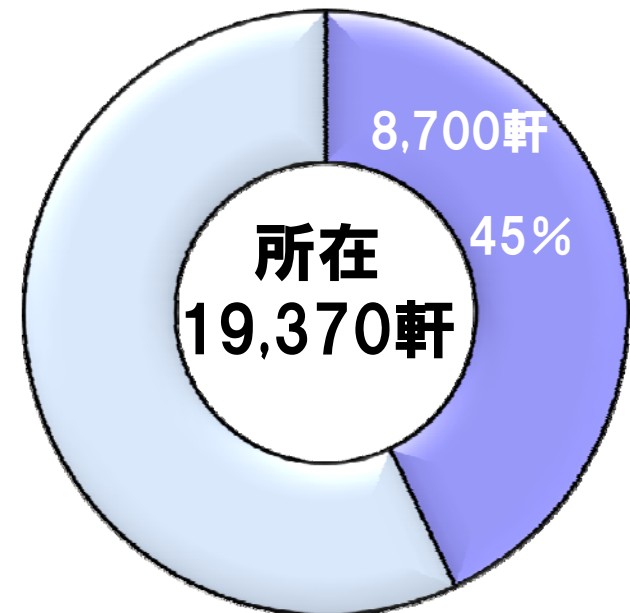
大学



病院



開業医・診療所 (専門医+DM患者100人以上)

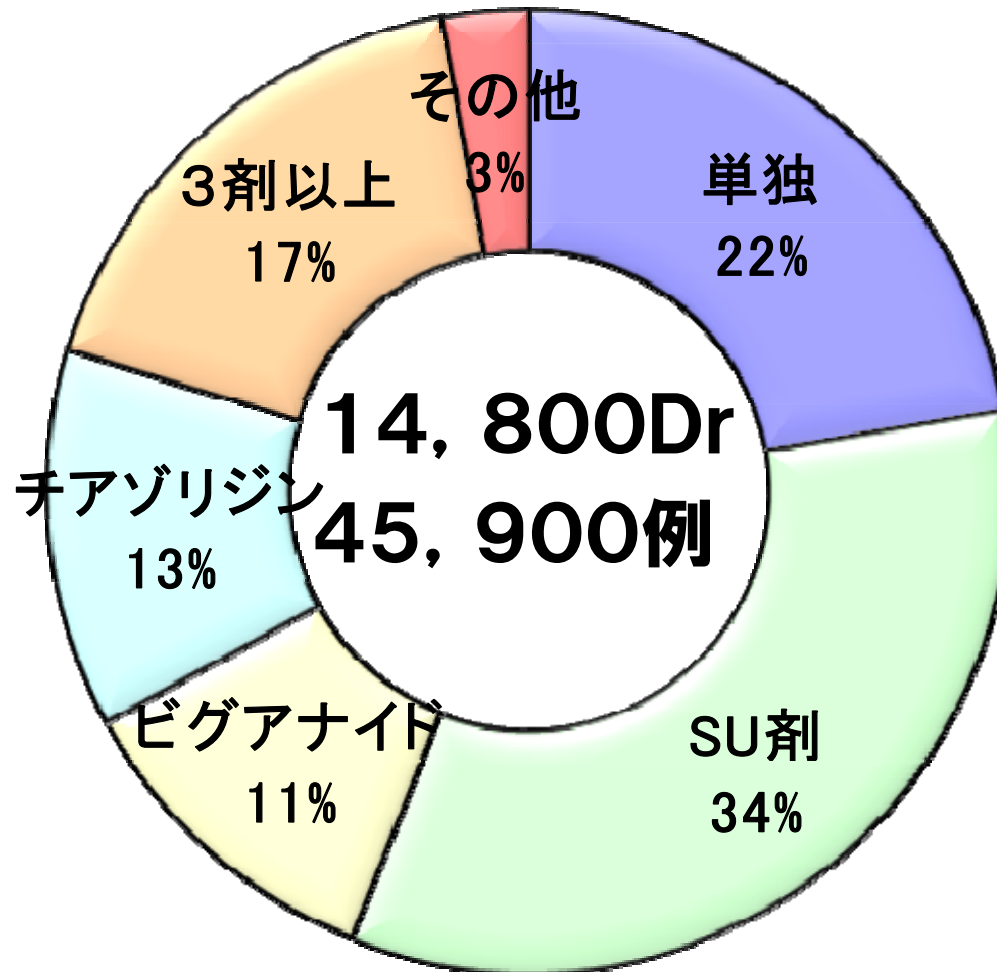


所在の5割の施設で口座を獲得する

グラクティブ錠の処方状況

当社MRによる報告

(4月末日時点)



先生方の反応

- グラクティブ錠に期待する点 -

- 食後高血糖を比較的早期に是正する
- 単独使用では低血糖が起こりにくい
- コンプライアンスが良く長期の血糖コントロールを可能にする
- 海外において多数の臨床的エビデンスがある

グラクティブ 市場育成の考え方

2010年度

2011年度

2012年度

全国・地区講演会
企画



専門医からの
適正使用の啓発

使用症例の
フォロー活動



グラクティブの使用実態と
適正使用推進

臨床研究テーマ
の推進

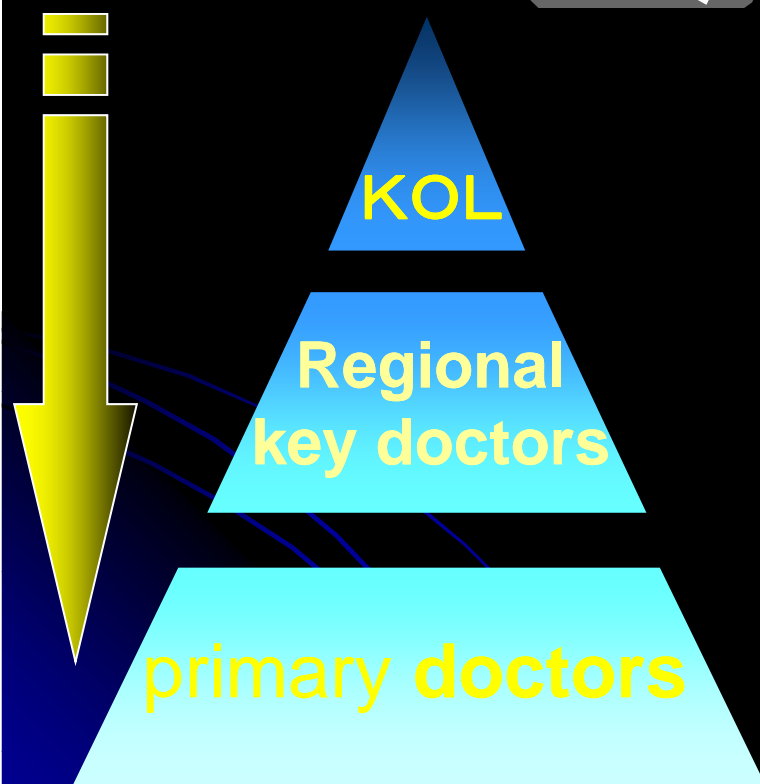


日本人における
エビデンスの確立

Top Down Strategy --- KOL Networking

講演会・研究会など

(2009.4月 - 2010.3月)



製品名	件数	参加医師数
キネダック	322	26,257
オパルモン	118	10,101
オノン	251	22,913
ステーブラ	113	8,723
リカルボン	174	16,510
グラクティブ	458	32,350
イメンド	33	3,775
その他(5製品)	335	29,608
TOTAL	1,807	150,237

グラクティブ講演会・研究会スケジュール

2009年

10月

▶ 製造販売承認取得

12月11日

▶ 新発売

12月13日

▶ Invitation フォーラム
全国の講師候補 300名を招聘

各県単位

地区

医師会

2010年

1月16日

▶ 全国グラクティブ新発売講演会
全国専門医 900名を招聘

講演会の展開

Educational Meetings

2009年12月13日
 Invitationフォーラム
 「グラクティブの有効性と安全性」

データ発信

講師候補
 300名

北海道

青森

秋田

岩手

山形

宮城

富山

新潟

福島

京都

福井

滋賀

石川

長野

群馬

栃木

茨城

奈良

岐阜

山梨

埼玉

東京

千葉

和歌山

三重

愛知

静岡

神奈川

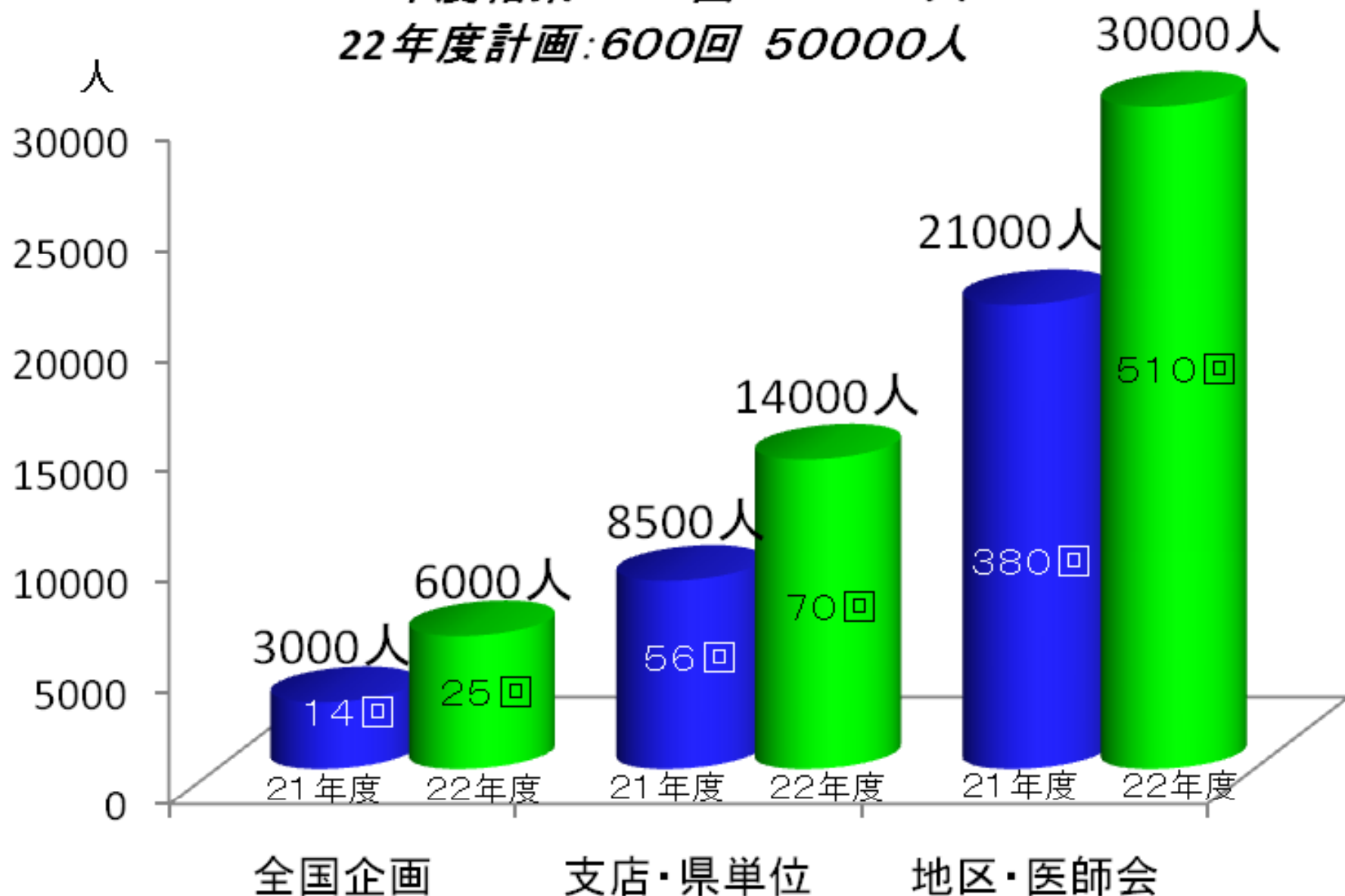
	支店・県	56企画
	地区	88企画
	医師会	292企画
*小グループ		3100企画
*学会共催セミナー		14企画



グラクティブ講演会

21年度結果:450回 32500人

22年度計画:600回 50000人



グラクティブの中期見通し

